

■コロナ閑話

第4波、マンボー、ワクチンとか言ってないで、新コロ問題を一瞬で終わらせる方法…

●感染症指定を1類相当（エボラ並み）→5類（インフル並み）へ

●PCR検査Ct値（陽性判定基準）を適正な30前後以下へ

と簡単に書きましたが、そう単純な話ではないのも確かなようで、「何も分かってなさそう」と批難もあって然るものですし、私どもは専門家ではありませんので、実際そういう面も否定できません。

しかし、世の騒乱や対立（規制と反駁）を見れば分かるように、新コロ問題に正解を語るプロはいません。

正解は、立場に根差した「専門知」だけで決まらず、社会性・死生観を含めた「総合知」により人それぞれです。

極端に言えば、殺人ウイルス・ゼロ志向と、風邪ウイルス・共生（または不存在）志向との対立です。

対極の立場を取る人同士が“科学”を盾に、互いを攻撃します。

PCR検査についても、積極推進派を「原理主義者」、完全否定派を「デマ吹聴者」と罵り合う様相です。

もちろん、その中間に適した利用法がある筈ですが、視点を変えて俯瞰すれば、これは面白い歴史的史実になると言えます。

どんなに理路整然と論説しても、万人（特に対極の人）には受け入れられません。パンデミックが落ち着いて、誰もが納得する分析に収束することもあれば、一部の人々から見て“陰謀”に終わることもあるのは、歴史を見れば枚挙に暇がないでしょう。

（嘘を通す為に陰謀論が敷かれる必然から、陰謀論が必ずしも嘘とは言えません）

このような分断社会は予測されましたが、今、新コロ問題について、マスク、ワクチンを含め、どの立場でも、何を発信しても、必ず批判されます。

ならば、「正解は無い」ことを正解とする寛容さが必要な筈です。

そして、“不謹慎”の名の下、野蛮な言論封殺・同調圧力・思考停止にこそ警戒すべきでしょう。

ただ、政策としては、2020年日本の超過死亡マイナス（例年より死者9千人減少-11年ぶり）でありながら、本当の社会的弱者（これも立場により対象は異なります）への無配慮な騒ぎようで、自殺者急増、老人・子供の不健康化、教育機会・婚姻・出生数の大幅減少にはやるせない思いがあります。

変異株でこれから増えると言っても、毎年1万人のインフル死者も実際は大きく変動します。

十年に一度のペースでSARS/MERSのように狂暴化するのなら、それはまた別の話（それこそ日本国の民度と財力ならあつという間に抑制できそう）でしょう。

過度の予防やワクチン接種による不自然な抗体アップデートがもたらすADE(抗体依存性感染増強)反応の方に警鐘を鳴らす学者にも耳を傾ける必要があります。

(SARS/MERSワクチン開発が頓挫したのはADEが解消できなかった為とのこと)

今回はPCR検査の問題についてよくご存知でない方向けに書くつもりでしたが、緊急事態ということですから内容を控えました。

(というより、PCR検査は実態を把握するのも、齟齬なく明解するのも難しく…)

何度か申してきましたが、新コロ問題は家庭内教育(科学的思考訓練)の恰好の材料に思います。

結論は二の次で、この同調政策の中では特に「唯一正しい対策が進行している」と思い込まされている子供に対し、「大人や専門家の視野も狭い」というメッセージは、子供の思考フロンティアを広く見せ、社会勉強を勇気づける筈です。

(教育行政に縛られ、初夏の体育でもマスク強要する学校では無理です)

盛夏を前に(しなくても)、マスクの問題についても再考していきたいと思います。